

令和3年度国立市市民表彰 教育文化功労

突けば槍 払えば長刀 持てば太刀 杖はかくにも 外れざりけり 外れざりけり



江角 和敏

昭和62年国立杖道連盟創立、会長に就任。平成20年から国立市体育協会に加盟し、理事・事業部委員を歴任されている。市内の小中学校で、古武道体験教室を開催し、児童、生徒を対象に日本の伝統文化としての古武道に関する啓蒙活動も行っている。

杖道をはじめたきっかけを教えてください。

高校生の頃、古武道である神道夢想流杖術二十五代の清水隆次先生に憧れ、先生の道場近くの大学に進学しました。しかし、大学入学直前に先生が他界された事を知り、清水先生の高弟である米野光太郎先生と廣井常次先生を探し教えを請いました。「続くかどうかも分らぬ者に流儀は教えられない。取り敢えず（現代武道の）杖道を遣ってみろ。」と言われ、仕方なく杖道の稽古を始めました。その後、廣井先生からは七年後、米野先生に至っては二十年後に漸く流儀について指導戴ける様になりました。

国立杖道連盟に加入したきっかけを教えてください。

三十年以上前の事ですが、東京都教育委員会が多摩地区で各自治体に働き掛け、杖道の講習会を開催しました。私は講師の助手を務めました。国立市からは社会体育科の職員が派遣されており、当方が国立市民と分かると国立市内でも杖道の稽古会を作る事を提案され、国立杖道連盟を立ち上げました。

連盟や体育協会での活動を教えてください。

杖道連盟内では、初心者には杖道

の指導、希望者で人格的に教えるに相応しいと認められた者には神道夢想流の指導、更に上級者には各併伝武術の指導を行っております。

体育協会では、ファミリーフェスティバル、市民祭、ウォーキング等への人員派遣を行っております。また、教育現場からの要望もあり古武道の啓蒙活動として、毎年市内の小中学校にて古武道体験教室を開催しております。

杖道の魅力について教えてください。

「突けば槍 払えば長刀 持てば太刀 杖はかくにも 外れざりけり」の古歌で表される千変万化する技の多様性、また「疵つけず 人をこらして 戒むる 教えは杖の 外にはある」の古歌で表される不殺の理念です。また、杖道の源流である神道夢想流杖術は警視庁機動隊では警杖術として採用されており、今の時代にも実用的武道として有用である事も挙げられます。

地域における杖道の今後について教えてください。

未だ杖道の知名度は低いため知名度を上げる事、また、自身の年齢も考え若い人材を育成する事を考えております。



▲神道夢想流杖術



▲一心流鎖鎌術



▲一角流十手術